



# 北陸地域の概要（2020年12月調査）

一般財団法人 北陸経済研究所  
地域開発調査部研究員 吉田聡子

## 景気の現状判断 Go To 停止と異例の年末年始で、DI値は4ヵ月ぶりに50を下回る

現状判断指数(DI)は、前月から▲10.6ポイントの42.0となった。「前半は好調だったが、新型コロナウイルスの感染拡大とともに徐々に失速し、Go To Travel キャンペーンの停止で一気に人通りがなくなっている(商店街)」、「突然の停止発表だったため、年末年始を見込んだ商品仕入れをどうやって処分していくか頭が痛い(一般小売店[鮮魚])」と切実な声があがる。また、「少人数のおせち料理は完売したが、例年であれば売れ筋の4~5人向けの販売が振るわず、帰省の状況を反映している(都市型ホテル)」、「企業における年末年始の挨拶回りに自粛要請が出ているせいか、来客数が減少している(美容室)」と例年の年末年始とは一変している。一方、「総菜やスイーツ、生鮮品が好調である。会うことのできない知人や子供へのギフトが冬も好調に推移している。外商部門では、法人がパーティー関連を取りやめた対応としてギフトが増えている(百貨店)」と新たな需要も生まれている。

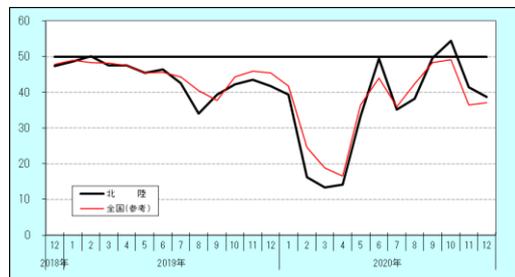
## 景気の先行き判断 感染拡大にますます先行きが見通せず、先行きDI値は下落

3か月先を占う先行き判断指数(DI)は▲2.8ポイントの38.7となった。「全国的な新型コロナウイルスの感染状況がまだまだ先行き不透明である。Go To Travel キャンペーンの再開も、2月以降の延長発表もまだであることから、先行きの不透明感が大変強く、悪くなる(テーマパーク)」、「2021年も新型コロナウイルスの状況で先行きが全くみえない。その時々で対応していかなければならない。東京オリンピックが開催されるかどうか大きな潮目になる(観光型旅館)」、「新型コロナウイルスの感染拡大が続く以上、状況が好転することはない。ワクチン接種が始まって、安心して暮らせるレベルに至るにはまだ1年近く掛かるのではないかと(住宅販売会社)」と厳しい指摘が相次ぐ。「治療薬やワクチン接種で新型コロナウイルスが落ち着くまで、この流れは変わらないのではないかと。安心があって、そこから徐々に元の生活に戻っていくのではないかと考える(新聞社[求人広告])」。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]



図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



### ●12月のアンケート内容

調査期間：2020年12月25～31日  
調査対象：合計100名（うち回答者88名）  
(内訳)  
・家計動向関連  
・企業動向関連  
・雇用関連

### ●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

※ 詳細は2021年1月25日発刊の「北陸経済研究2021年2月号」をご覧ください。